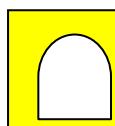


日吉台地下壕保存の会会報



第115号
日吉台地下壕保存の会

第8期ガイド養成講座始まる

新年度も始まり一ヶ月が過ぎ、新緑が美しい季節になってきました。昨年の今頃を思い起こすと航空本部等地下壕東側出入口7aが破壊され、擁壁が作られようとしていた時期です。破壊を最小限に抑えるために走り回っていました。結果として7a出入口は擁壁で覆われてしましましたが、他の3カ所の出入口は破壊を免れ、現在工事は行われておらず、監視活動を継続しています。横浜市は地下壕を「周知の埋蔵文化財包蔵地」に指定し、開発工事をするときに教育委員会に届ける義務を課しました。しかし、法律的に工事を中止させることは出来ません。保存するために早く「指定文化財」登録が望まれ、これからその運動を活発化する必要があります。



第8期 2014 ガイド養成講座 第1回

塾では安全確認のため業者による調査を、必要なら修復工事をやる予定です。そのために地下壕内見学は中止になっています。おそらく5月一杯は調査・工事がかかると思われますので、見学会は地上部分のみになります。見学を予定されている方は保存の会まで連絡を下さい。

今後、6月に総会・記念講演、8月に明治大学生田キャンパスで戦争遺跡保存全国シンポジウムが開かれます。詳細はこの会報にあります。是非に皆様の参加をお待ちしています。

1月から第8期ガイド養成講座が始まりました。今回は8名の方が申し込まれ約半数の方が毎回出席されています。既に修了された方たちと一緒にフィールドワークや見学会をしています。6・7期に修了された方が実際にガイドに立たれて、実践と勉強と一緒に学べる方式で楽しくやっています。仲間が増えることはうれしいことです。8期の方々もこれからも一緒に活動が出来ればと思います。

3月に地下壕内で2cm角ぐらいの破片が落下しているのが見つかりました。慶應義

目 次

新年度にむけて(大西章)	1p
お知らせ 2014年度総会の開催	2p
お知らせ 第18回戦争遺跡保存全国ネットシンポジウム 神奈川県川崎大会の開催	2~3p
報告 港北区地域のチカラ応援事業へ応募(小山信雄)	3~4p
資料 保存の会の設立と活動について(中沢正子)	4p~7p
報告 耐弾式堅穴空気坑地上部の調査(長谷川崇)	7p
寄稿 ガイド養成講座を受講して(佐藤宗達・小山信雄)	8p~9p
報告 公開講座「世界の平和思想と日本の現状」を聞いて (亀岡敦子)	9p
資料 栗原啓二氏の聞き取り調査 その1(山田譲)	9p~13p
連載 日吉第一校舎ノート(3) 「理想的新学園」の建設(阿久沢武史)	14p
連載 地下壕設備アレコレ【その10】(山田譲)	15p
お知らせ 2014 平和のための戦争展 in 横浜	15p
活動の記録	16p

2014年度総会のお知らせ

○日 時 2014年6月7日(土) 13:00~16:00 (12:30 開場)

○場 所 慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎シンポジウムスペース

○記念講演 13:15~14:45

『近代都市の形成と軍隊－横浜・横須賀を中心に－』

～横浜や横須賀などの町の成り立ちと軍隊や基地の関係～

講 師 上山 和雄 氏 (國學院大學教授・近代史)

横浜市文化財保護審議会委員・横浜開港資料館館長

○総会 15:00~16:00

- ・2013年度活動報告
- ・2013年度会計報告
- ・2013年度会計監査報告
- ・2014年度会長・副会長・運営委員・会計監査の選出と承認
- ・2014年度活動方針案説明
- ・2014年度予算案説明

第
18

全国シンポ大会要項決定!

回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県川崎大会

今こそ戦争遺跡を平和のための文化財に!

【日時】2014年8月16日(土)~18日(月)

【会場】明治大学生田キャンパス中央校舎 (〒214-8571 川崎市多摩区三田1-1-1)
小田急線向ヶ丘遊園駅からバス20分、生田駅から徒歩15分

【主催】戦争遺跡保存全国ネットワーク
第18回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県川崎大会実行委員会

【共催】明治大学平和教育登戸研究所資料館

【後援】川崎市、川崎市教育委員会、マスコミ各社など申請中(予定)

【日程】

○8月16日(土) 13:00~ (開場 12:30)

開会セレモニー・文化行事

13:40 [記念講演] 「アジアの平和と日中関係のこれから」

丹羽宇一郎氏 (前中国大使 前伊藤忠会長)

15:00~ 基調提案 地域報告

18:00~ 全国交流集会(柏屋)、歓迎行事

○8月17日(日) 9:15~分科会(中央校舎)

第一分科会「保存運動の現状と課題」

第二分科会「調査の方法と整備技術」

第三分科会「平和博物館と次世代への継承」

《参加費》 一般 2000円(一日参加は1000円) 大学(院)生 1000円 高校生以下無料

☆現地見学(フィールドワーク)

A 陸軍登戸研究所(参加費無料)

8月16日(土)午前10時 明治大学平和教育登戸研究所資料館集合(12時終了)

B 海軍連合艦隊司令部地下壕(日吉台地下壕)(参加費800円)

8月18日(月)東急東横線日吉駅改札口 (1)午前9時 (2)午後1時集合

C 陸軍歩兵101連隊(東部62部隊)と溝の口演習場のあとを探る(参加費4000円バス代込)

8月18日9時半 東急田園都市線宮崎台駅改札集合

D 東京大空襲と第五福竜丸事件を考える(参加費6500円 バス代、弁当代込)

8月18日午前9時東京駅集合

E 東京多摩地域の戦争遺跡(調布飛行場、日立航空機立川工場変電所など)を探る
(参加費バス代4000円食事代別)

8月18日午前9時半三鷹駅北口集合

〈注意〉CDEのコースは7月末までにお申し込みください。先着25名締め切り

◆申込書等は次号会報に同封予定です。また、登戸研究所保存の会、日吉台地下壕保存の会のホームページからもダウンロードできるようにする予定です。

☆〈写真展示〉 平和のための戦争遺跡の保存を求めて

会場: 明治大学平和教育登戸研究所資料館

期間: 7月15日~8月20日まで



港北区地域のチカラ応援事業「チャレンジコース」への応募

小山信雄(運営委員)

平成26年度の港北区地域のチカラ応援事業「チャレンジコース」に応募しました。この事業は、地域の課題解決や地域住民のために自主的・主体的に行う団体の活動を応援するもので、団体の活動実績や内容に応じて、4つのコースが設けられています。「チャレンジコース」に応募した事業は企画内容の発表を行うことになっており、4月19日(土)、港北区役所で開催された公開提案会に、佐藤運営委員と共に参加しました。今年

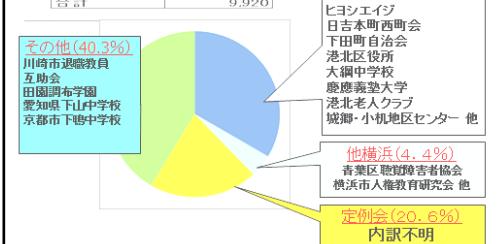
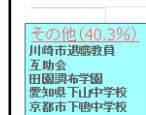
- 毎年ガイド養成講座を開催し、ガイドの人数を増やし、見学会の回数、見学者を増やす。

- 同時にガイドの質の向上を図って、日吉台地下壕を多くの人に知って貰うよう努力する。

- 港北区の地域の歴史の学び場として地道に活動継続する。



地区別見学者数(過去5年)	
港北区	3,327
他横浜	435
定例会	2,043
その他	4,115
合計	9,920



度は応募多数ということで、新規に申請した9団体のみのプレゼンテーション実施となりました（チャレンジコース全体では26団体有り）。7名の事業推進懇話会委員と50名近い参加者・観客の皆様に向かって、8分間のプレゼン（時間厳守）と12分間ほどの質疑応答となりました。事業の分類として、「福祉保健」「文化芸術」「地域まちづくり」の3テーマあり、「文化芸術」で「日吉台地下壕見学会のガイド養成（人材育成）」の事業名で提案しました。私たちの会は、今年で設立から25年目を迎える、見学者も昨年末迄に25,300名を数えます。特に2001年の地下壕内部の整備が整って以降、見学者は増えて行き、2009年には3,000名近くまでとなりましたが、見学者に対応出来るガイドの人数不足により、2010年以降は2,000名以上の見学者を呼ぶことが難しくなっています。特に、2013年春に発生した「地下壕の一部破壊」による関心の高まりで見学希望者はむしろ増加傾向となっているため、新しいガイドの養成は喫緊の課題です。今年度以降も、毎年ガイド養成講座を開催し、ガイドの人数を増やし、見学会の回数・見学者を増やし、同時にガイドの質の向上を図って、日吉台地下壕を一人でも多くの人に知ってもらえるよう努力します。私たちは、これからも港北区の地域の歴史の学び場として、地道に活動を継続して行きます。

資料**第8期 2014 (H26) ガイド養成講座 第1回****保存の会の設立と活動について**

中沢正子(運営委員)

第1稿 2011.8.7 「戦争遺跡保存全国シンポジウム」 レジュメ『会報103号』に掲載

第2稿 2012.3.17 「ガイド養成講座」 レジュメ『会報105号』に掲載

第3稿 2013.4.13 「ガイド養成講座」 レジュメ

第4稿 2014.1.18 「ガイド養成講座」 レジュメ

★1. 日吉台地下壕見学ことはじめ

日吉台地下壕保存の会結成以前のことを書かれた寺田氏（事務局長・4代目会長）の文章がある（『慶應生協教職員版34 1986.11.25』）。それによると次のようにある。

*昭和30年代には地下壕への出入口はあちこち開いていて、どこからでも入れた様に思う。

*高校の南側ケヤキ並木のところに、コンクリートの直角3角形をした出入口があったが、塞がれていた。（この出入口については私も知っている。後に子どもがこの建造物で遊んでいる写真を提供された方がある）

*1985（昭和60）年夏、工務課の人から「永戸先生（初代会長）ほか何人かの先生が地下壕に入られるが一緒に参加しませんか」と声をかけられ、8.26に入った。壕の中は地下水が流れ、泥が出入口から流れ込んでいるというので、長靴、ヘルメット、長袖の上着、懐中電灯、地図、カメラと言う装備。壕内の酸欠、落盤を心配。冬暖かく、夏涼しい所。

*高校の先生、文化地理研究会の生徒が入りたいと。10.5に案内。塾生新聞の学生記者も入坑。『塾生新聞10.10』に掲載。1985年慶應高校日吉祭の文化地理研究会の展示で発表。

*1986.8.23、慶應生協教職員委員会の主催で寺田のリーダーのもと地下壕探検。元海軍特別少年兵として地下壕で暗号解読の任務に当っておられた鹿島光雄氏も参加お話を伺う。鹿島氏の見学記は『慶應生協教職員版33 1986.10.8』に掲載。

*1969（昭和44）年、慶應高校生有志が地底研究会を組織して調査、発表した『わが足の下』がまとめた資料の唯一のもの。『慶應義塾百年史』『三田評論』『連合艦隊の最後』などに断片的に書かれている。

★2. 「日吉台地下壕保存の会」結成 1989.4.8。（会報1 1989.5.10）

正式名称「連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会」

★3. 永戸多喜雄会長の呼びかけ（会報第1号 1989.5.10）

要約「20世紀の史跡として保存しようという会が発足してから1カ月。教職員有志、空襲

下の日吉で生きた人々、旧海軍関係者、地域で子供たちの教育にたずさわる教師たち、きわめて穏和だが、平和への熱い想いを胸に秘めた周辺の市民が、一つの目的のために会を結成した。画期的な出来事で責任は重い。地下壕の証言に耳を傾け、二十世紀の最後を生きる私たちに地下壕がつきつける問い合わせに答えながら設立総会で採決された目的を実現させるために歩き始めましょう。」

★4. 会則改正案から会の目的を要約する (会報45号 1998.4.4)

第2条 (目的)

1. 史跡として保存するための運動をすすめる。
2. 調査・研究をすすめる。
3. 保存する意義を市民に広め、永く後世に語り伝えられるようとする。
4. 戦争と平和の問題を考え、学習できる「平和記念資料館」(仮称)を建設する運動をすすめる。

★5. 地下壕見学会お知らせにみる流れ

見学会は『会報1 1989.5』から、『会報35 1995.9』までを見ていくと、ほぼ1年1回の開催となる。『会報49 1999.4』ルール作り、『会報57 2001.4』蝮谷出入口工事完了、『会報60 2001.11』で、月1回の定例見学会を2001.11より実施と予告している。

慶應が蝮谷出入口を開け、壕内を整備し、大型の懐中電灯を取り付けることにより見学会がルールに従って容易にできるようになった。

★6. 「日吉地下壕入坑ガイドライン」完成 <ファイルを提示、『日吉台地下壕のガイド事例集』参照>

H17(2005).4作成、H20.1一部改正、慶大総務部、日吉キャンパス事務センターで作成され、それに添って見学会実施に。

★7. 繙続的事業のはじまり

- *1989.4 発会式総会第1回～(会報1)
- *1989.5 会報発行第1号～(会報1)
- *1990.12 戦跡見学会(バスツアー) 1990～年1回程度(会報8)
- *1992.12 平和のための戦争展1～(頭に川崎・横浜又は横浜・川崎をつける)(会報20)
- *1996.7 平和のための戦争展かながわ1996(会報39)～1998(会報47) 中止
- *1997.5 平和のための戦争展in よこはま 1997～(会報43)
- *1997.7 戦争遺跡保存全国シンポジウム1～(会報41)
- *2005.10 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座(ガイド養成講座) 2005～概ね毎年(会報76)

*2007.10 慶應大学ヒヨシエイジ主催 日吉フェスタ 2007～(会報85)

*2009.3 日吉をガイドする講座(日吉台地下壕保存の会公開講座) 1～(会報90)

*2009.6 ガイド学習会1～(会報93)

*次々に企画される事業に一人一人が少しづつ力を出し合ってきた。

★8. これまでの大きな事業(出来事)

- *1995.12 横浜市長、神奈川県知事へ「(旧海軍)連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存を求める陳情書」約16000名の署名を提出(会報35、36、37)
- *2000.9 横浜市長に「日吉台海軍艦政本部地下壕について[調査、保存等]要請書」を提出(会報55、56)



第8期ガイド養成講座 2014.01.18

- *2001.8 第5回戦争遺跡保存全国シンポジウム 2001川崎大会開催 現地実行委員として協力(会報56他)
- *2012.8 第15回 同上 2012横浜大会開催 同上(会報103他)
- *2003.4 横浜市長に「航空本部地下壕出入口付近のマンション建設について」要望書等提出(会報66、68、71他)
- *2007.11.慶應義塾長に『「日吉平和ミュージアム」つくりの提言』を提出(会報86)
- *2010.3 同上 同上 (会報97)
- *2009.4 慶應義塾長に「航空本部等地下壕入坑部保存の件要望書」提出(会報91)
- *2013.5 文化庁長官、神奈川県教育委員会教育長、横浜市教育委員会教育長に「日吉台航空本部等地下壕の保存に関する要望書」を提出(会報110)
- ★9.「2010年度三田史学会大会シンポジウム」に参加(史学第80巻第2・3号抜刷 2011.6より)(会報98)
- *「シンポジウム キャンパスのなかの戦争遺跡～研究・教育資源としての日吉台地下壕～」と題して報告とコメントが発表された。報告2「日吉台地下壕保存の会の活動」を新井揆博が、コメント3「アジア太平洋戦争と慶應義塾」を都倉武之が発表した。
- *蝮谷体育館建設に当って工事中に発見された「B地点航空本部等地下壕の出入口」の扱について「日吉台地下壕に関する諮問委員会答申書H21.1.21」によると、義塾からの提案のあった3つの対応案のうち[第1案:記録保存案、第2案:出入口2a埋没案]のうち「第3案:北側移動案」の採用が望ましいと答申。
- *「教育環境改善の現実と日吉台地下壕の保存。日本近現代史研究のみならず、世代を超えたコミュニケーションの触媒となることで戦争の記憶を後世に伝えることを可能にする、高い学術的・教育的価値をもつ文化財として評価」とある。
- ★10.事業の募集、賞の募集に応じて
- *2005港北区「ふるさとサポート事業」に応募、35万円の助成金を受け(会報75他)、続いて2006、2007と3年間に計約50万円の助成を受ける。
- これにより2大事業を実施した。①『戦争遺跡を歩く 日吉』の刊行。②「日吉の戦争遺跡ガイド養成講座(ガイド養成講座)」の開催。
- *2005.10「神奈川地域社会事業賞」を神奈川新聞社等より頂く(会報76他)
- *2011.3「神奈川ボランタリー活動奨励賞」を神奈川県知事より頂く(会報100)
- ★11.図書の刊行 当会刊行のもののみ
- *寺田貞治書き「連合艦隊司令部日吉台地下壕について1~22」(慶應生協教職員版34 1986.11.25~55 1991.4.1)同題の部分をコピーし製本1992頃。
- *日吉台地下壕保存の会 『日吉台地下壕～連合艦隊司令部ほか旧海軍極秘地下施設～』同会1993.4(会報23)
- *日吉台地下壕保存の会編集・発行 『太平洋戦争と慶應義塾』 内容:旧海軍極秘地下施設「日吉台地下壕」寺田貞治著、「学徒出陣」と特攻隊白井厚、戦争体験を語る～戦争と国家～小島清文、戦争への道～私の育った時代～永戸多喜雄 1997.8(会報44)
- *日吉台地下壕保存の会編『戦争遺跡を歩く 日吉』同会2006.1(会報78)
- *日吉台地下壕保存の会 『日吉台地下壕のガイド事例集』 同会2011.8 (会報103)
- ★12.『慶應日吉キャンパスピースウォーク』の刊行 <何種類かを提示>
- 『戦争遺跡を歩く 日吉』ができるまで見学会で使用していた。
- ★13.日吉台地下壕保存の会の現況と日常の動き
- *2012年度総会資料より 会員数 個人321名、交換・寄贈団体65。見学会45回。見学者1573名。年会費千円。実行予算約75万円。
- *運営委員会 月1回開催 メンバー:10名余り 出席者で次回開催を決め欠席者への連絡不徹底。
- 行事(事業)への対応。突発事件への対応。問題点の話し合い。会報発送。その他。

*見学会 定例：原則第4土曜日。慶應が認めた団体：ウィークデイ。

ガイドは最低3名そろえる。当日簡単な打ち合わせ、各自ガイドする場所を確認。

日吉駅頭で受付。出発最後尾の確認。警備室への連絡。先行して壕内点灯。壕内消灯。懐中電灯の片付け。警備係に終了挨拶。

*ガイド学習会 1ヶ月～2ヶ月おき。ガイド実務者。

*見学会終了後の反省会、運営委員会での討論では不足との声があり学習会を始めた。めいめいでガイド事例を作文したり、戦争体験の聞き取りを作文したり、見学時間の制約を話題にしたり、自由な発言が次回につないでいる、新人ガイドの方々へのお誘い。

*平和のための戦争展実行委員会 主メンバーと出席可能な人。

*法政二高で開催。当年のメインテーマを決め、それにより講演、講師、展示等を考慮。

*戦争遺跡保存全国シンポジウム会員 運営委員の選出、開催地に決定の場合は現地実行委員として協力

★14. ガイド学習会で討論されてきた内容 (『日吉台地下壕のガイド事例集』2011.8より)

皇紀と西暦、第一校舎のカップの地図は何を意味するか、軍令部第三部の退避壕、施設や部隊設置年及び人員、福澤諭吉特に「脱亜論」、壕内の施設・設備、グランド、チャペル、通信機の台数、蛍光灯、直流・交流、本土決戦、朝鮮人の調査、児童の落下死亡事故、空襲の実態がわかる港北区地図、日吉電話局、平和学など。

★15. おわりに

現役で頑張っているガイドは60歳代、70歳代、80歳代が殆どで交代の時期が近づいています。一方、見学者が多い日には地下壕内で班別となり、ガイドの必要性が高まる。1人でも多くガイドとして参加されるよう一同心から願っています。

報告 耐弾式堅穴空気坑地上部の調査

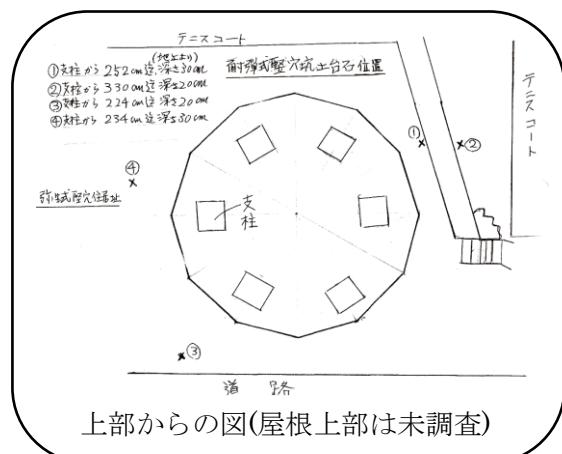
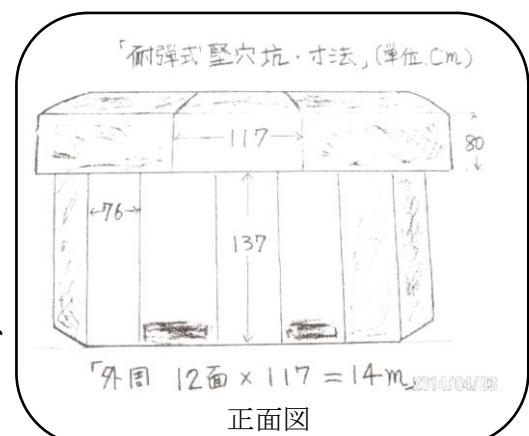
長谷川 崇(運営委員)

2014年4月12日(土)ガイド養成講座第4回フィールドワークにて、現在残っている耐弾式堅穴空気坑の地上部分の計測を致しました。今までの見学会ではフェンス越しにしかガイドしていませんでしたが3月からフェンス内に入り、ガイドできるようになりました。

耐弾式堅穴空気坑地上部は屋根の部分は周囲12面で14m、支柱は幅76cm、高さ137cmでした。そして全体を支てる土台石が地面より深さ約20cm～30cmの所に、大きさは支柱より約250cm位外側まであることがわかりました。現在は地下との出入口はコンクリートで塞いであります。



耐弾式堅穴空気坑地上部の土台調査



☆2012 ガイド養成講座を受けて 「驚きの連続」 第6期受講生 佐藤宗達

(1)「ガイドになりませんか」2011年秋、新聞記事を見て定例見学会に参加、地下壕に圧倒されて出てきたところ、ガイドが足りなくて見学会をお断りすることもありますとのこと、横浜市民としてなんとかしなければとガイド養成講座に参加した次第。これが驚きの始まり。

(2)「最新のZ工法で突貫工事」地下30メートル、垂直に穴を掘る技術で生コンを流し込む工法とのこと。そう云えば高層ビルに生コンをコンプレッサーで押し上げる場面を見たがなんと60数年前に開発された技術ではないか。更に技術開発には利根ボーリングが参画のこと、ハタと気がついた。かつて比国で地熱発電案件の運送を担当した折、地下から熱湯を汲み上げる穴掘りは利根ボーリングが担当していました。二重三重の驚き。

(3)戦争体験を聞く講座があり5月29日の横浜大空襲を体験された方のお話を聞きました。私の頭には当時西区藤棚町にあった母校が全焼、間借りを繰り返し昭和26年ようやく安住の地についていた程度の知識しかなかった。当日煙にまかれ命からがら逃げ延びた体験談はただただ涙でした。驚きどころではありませんでした。

(4)フィールドワーク、雨模様の中、周辺を廻りました。航空本部側の出入口がこんな所に、掘り出された地下壕の土砂で盛り上げられた庭、そして足立さんの庭から入った地下壕、水洗トイレの便器の跡がウッスラと見えました。よくもま～～と驚きだらけ。艦政本部の方も見たいので暇を見つけて廻るつもりです。実際に現場を見られたのでガイドの説明には随分と役にたちました。

(5)聞き取り調査の話がありました。地元の消防の方の空襲の証言には息を飲む思い。私も父親の話をとぎれとぎれに聞いていましたがもっと詳しく聞いておけばと後悔です。また叔父が通信兵でしたので通信の話を聞きたかったとこれまた後悔。なお先輩が早稲田中学在学時にドーリトル中佐の本土初空襲を受けた話を聞きました。当時は「そーでしたか」でしかなかった。これまた後悔です。これからはメモを取る事にしました。



第1校舎前のガイド 佐藤宗達さん(右)・小山信雄さん(左)

☆2013 ガイド養成講座を受講して

第7期受講生 小山信雄

2012年秋、定例見学会に参加する機会を得て、身近な場所にこのような軍事施設が存在していることに驚きを覚えると共に、とても興味を惹かれました。ガイド養成講座の存在を知り、「ガイドをすることなど相当大変なことだなあ」と感じつつ、「もっと実態を知りたい」と思い受講しました。ガイドの基本的な役割や目ざすもの、専門用語の解説など、諸先輩ガイドや講師のみなさまによる具体的で分かり易い講義を頂き、少しづつガイドの心構えが出来たような気がします。

一番難しいと感じたのは、「体験していない戦争について、見学者にどのように話をしたら良いのか」という事でした。頂いた具体的な諸アドバイスを生かす為にも、自らの知識を広げ、理解を深める重要性を再確認し、「事実と意見の区別をすること」は肝要と感じました。保存の会の歴史を学び、当初は壕内の酸欠や落盤を心配しながら、流れる地下水や泥の中を長靴、ヘルメット姿で見学を始めた時代があったことや、「地下壕の文化財指定」がなかなか実現出来ない状況についても理解出来ました。丁度、養成講座の初日に、「航空本部地下壕東

側入口が住宅建設の開発工事のために破壊」の報を受け、現場見学を行い、文化財指定を受けていない戦争遺跡の危うさを、さまざまと実感することが出来ました。

さまざまな講座、「上原良司の思索」「なぜ日吉に連合艦隊司令部がやってきたのか」「本土決戦が回避できたのは『天皇の聖断』のおかげか」など、今までなかなか聞くことの出来なかつた話ばかりで大変勉強になりました。中でも特に強く印象に残ったのは、元暗号兵の栗原さんのお話でした。実際にどのような仕事の日々であったのか、食事は、服装は、休日はあったのか、又、反戦思想の為幹部になれなかった人々もいた、などとても貴重なお話が聴けた事は大きな収穫でした。

講座後、初歩ガイドも始めるようになり、毎回緊張の連続ですが、見学会の後、ガイド内容についての指摘やアドバイスを頂いたり、毎回、反省会で当日の振り返りがあることなどは大切なことと思い、保存の会のチームワークを感じます。先に起きた一連の戦争は、決して昔の人達だけの出来事ではなく、「戦争を起こさせない。平和な社会を持続させる」ために、現在を生きる私たちにとっても学ぶべきことは多々あると確信しますので、ガイド活動を通じて、こうした「想い」が伝えられるよう努力して行きたいと思います。

報告 第9回日吉台地下壕保存の会公開講座をきいて思うこと

亀岡敦子(運営委員)

3月29日、9回目の公開講座「世界の平和思想と日本の現状～特定秘密保護法、憲法9条などをめぐって～」(講師藤森研氏)が満開の桜にいろどられた慶應義塾日吉キャンパス来往舎で開かれました。55名の参加者の大半は、当会の会員とその友人ですが、港北区の広報誌「楽・游・学」3月号の掲載記事を見て来た方も多かったように思われます。この講座は、2009年に「日吉をガイドする講座」と名付けて、「日吉」をさまざまな角度からとりあげた講演会を開いたのがはじまりです。日吉台地の成り立ちのこと、古代の遺跡と現代の遺跡のこと、慶應義塾など、テーマは様々ですが、会の行事として定着してきました。

講師の藤森研さんは1949年生まれのまさに団塊の世代で、朝日新聞の社会部記者、朝日ジャーナル編集部、編集委員、論説委員として活躍され、2010年から専修大学文学部で教鞭をとっています。お話は、御巣鷹山の日航機墜落事故の情報の混乱ぶりから始まりました。墜落地点さえ、二転三転して取材どころか救出も遅れたことなど、はじめて知りました。続けて、日本国憲法は日本人が主体的に選んだこと、この憲法のおかげで国際社会から信頼されていること、現政権下で成立した一連の法案の危うさなど、あらためて考えさせられました。そして1904年に発表されたまだ25歳の与謝野晶子の「君死にたまふこと勿れ」にふれ、その反戦詩の普遍性にふれ、与謝野晶子がお好きとのこと。

2時間の講演時間はあつという間に過ぎ、質問をまだ抱えたままの参加者は、講演後もお茶を前に講師をかこみ、さまざまな質問や感想を出しあって、たいへん有意義なひとときを過ごしました。

資料

栗原啓二氏(連合艦隊司令部元暗号兵)のお話(その1)

2013年5月13日ガイド養成講座での聞き取り要約(文責・山田譲)

栗原さんの軍歴---19才で海軍志願。昭和19年2月防府通信学校入学。同8月卒業、東京通信隊配属・上等水兵。同9月29日頃、日吉連合艦隊司令部配属。20年4月半ばに伊豆下田の「回天」特攻隊基地に配属、5月に兵長。8月終戦で一階級上がり三曹(下士官の一番下の階級)で復員。



講演中の藤森研氏

山田(以下 Y) 栗原さんは、なぜ志願だったんですか?

栗原(以下 K) 私は陸軍の学校にちょっと勤めたことがあるんです。それで陸軍の兵隊はやっぱり大変だと思って。どんな兵でも徴兵に取られるのなら、海軍のほうがいいと思って志願しました。

《勤務体制》

Y: ではまず勤務状況ですが、交代勤務ですね? 何交代ですか?

K: 多分、3交代、4交代だと思うんです。忘れてしまつたんですけど。1班が大体、暗号兵が25名ぐらいで、あと取り次ぎの兵隊が5、6名付いていました。それは電報を配達する係で。地上の司令部に届けるということです。その兵隊は、徴兵とか、現役でも海軍に入りたい、暗号兵じゃなくて普通の兵隊だと思います。

Y: 勤務が3交代であれば当直明け休みで、4班なきゃいけないですね。1直が何時間?

K: 大体6時間から8時間です。当直に入ってるときは途中の休憩は全然ありません。飯は食います。水ぐらいは飲みます。トイレに行くとか。

Y: 暗号室で勤務されてたんですね? 隣に電信室がありますね?

K: ええ、部屋はずっと長いんです。半分ぐらい電信室、半分が暗号室。仕切りはない。

Y: そうすると、電信室にはどのくらいの兵隊がいたんですか?

K: 20~30人ぐらい。

Y: 班長というのは、どのくらいの階級の人がやるのですか?

K: 上等兵曹(下士官の一番上)です。少尉以上は、中尉さんが一番上の分隊長。その上の暗号長は大尉なんです。現場についてる中尉が東大出の予備士官。暗号班にも、予備学生で将校になれない人が下士官で、15人ぐらい居ました。軍人に向かないっていうような人。予備学生には受かって軍人に向かないっていう、軍隊に批判的とか、そういう思想やなんか書いて見られて駄目だとか。

Y: そういう班編制で、電信班も似たようなものですね?

K: そうです。

《暗号解読》

Y: 電信班で受けた電文は数字5桁で送ってくるわけですね?

K: 一番早く解くのが緊急電報。その次が作戦緊急。

Y: 解く手順ですが暗号はモールス符号を使って数字が届きますよね。

K: それが暗号班に回ってくるわけです。5桁の数字がいっぱい並んでる。それを乱数表と照らし合わせて乱数表の何ページをやってるって。これに足し算して十の位は捨てて。繰り上げなします。それで暗号書と合わせて解くわけです。

Y: そういう解いた数字が出てくると、たとえばここにある暗号書だと連合艦隊は73958ですから、73958という数字を見るとこれは連合艦隊だなって。漢字仮名混じりの文字が出てくるんですね?

K: はい、そうです。

Y: 電報っていうと普通、カタカナ言葉で送ってきますけど、海軍暗号では、こういう漢字の文字が出てくると。

K: そうですね。この第1乱数表ってありますよね。こういうのは見たことないです。口号



講演中の栗原啓二氏

乱数表といって、口号は暗号書で使ってたんです。口号ってみんな書いてあったです。横長の乱数表なんです。暗号書はイロハニってあるんです。通信学校からずっと口号を使ってまして。

Y: あ、ずっとですか。乱数表は定期的に交換するはずなんですか。

K: 本当はそうなんんですけど、交換するっていうのも大変なんです。海軍省の中に印刷所があって、そこで暗号書を印刷していました。

Y: 先ほどは緊急度っておっしゃられてましたけど、秘密等級っていうのもありますね。秘密密度が高いとか低いとか。この間、元暗号兵の新井安吉さんのお話だと、下っ端はあまり秘密密度の高いものを扱わしてくれなかつたって言ってましたけど。

K: そうですね。重大なやつは士官が解きます。

《印象に残る解読電文》

Y: 印象に残っている解読した電文はどんなものがありますか。

K: 神風(しんぷう)特別攻撃隊の敷島隊のあの電報が来たとき、一番感銘を受けました。

Y: 敷島隊って一番最初の特攻隊ですね。フィリピンのレイテ沖海戦で、1944の10月?

K: ええ、10月25日。軽空母かなんか撃沈しましたね。隊員の名前が分かんなくて、隊員の階級、氏名を知らせると(司令部が)電報を打って、それでその返事が来たわけです。それをちょうど私が解読して。本当は、敷島隊の前に大和隊っていうのがあったんです。その大和隊が一番最初らしいんですけど、戦果を確認するのに手間取ってる間に敷島隊が戦果を上げたものだから、第一陣になっちゃったんです。

Y: 他には何か印象に残っている電文は?

K: 監視艇ですね。太平洋上に扇状にずっと監視艇を一月ぐらい浮かせて、敵の軍艦が来る電報を打つわけです。それで、1月か3月ごろだったですか、監視艇第なんとか丸っていうのが、「敵機動部隊発見。空母何隻、戦艦何隻」って電報打ってきたんです。電報打つと、敵に位置が分かっちゃうわけですね。それで、「ワレ テキノ クチクカンニ ツイセキサレル」「ゼンイン ワラッテ ゴゴクノオニト ナラン」と打つんですけど、暗号が間に合わないんで、平(ひら)文で。

Y: 暗号文に対して平文といいますね。モールス符号でそのまま文字を打つのを平文といいます。

K: 普通の漁船を徴用してその任務に就けてるから、漁船の速度っていうのは遅いわけなんです。敵の軍艦に、電波出すとすぐに位置が分かっちゃうわけです。それで「我ら、全員笑って護國の鬼とならん」と平文で打ってきたんです。通信担当下士官はそれを、「みんな聞け」って言って、電文を読み上げたんです。それから1時間ぐらいたって、もうやられたと思ったら、「ワレ ダッシュツニ セイコウセリ」。みんなワーッて。

Y: それはいい。よく逃げられた。

K: そうですよね。敵船もあまり追跡すると日本に攻撃されると思って深追いしなかったんじゃないですか。

Y: 2月3月って硫黄島の攻撃のころですね。硫黄島攻撃大艦隊に遭遇した。

K: そういう電報がありました。硫黄島のときは、もっと悲惨なのがいっぱいあって、だいぶ忘れちゃったんです。硫黄島は海軍の陸戦隊がいましたね。

Y: 他にはどんなのがありますか?この間は、各航空基地の稼働機数がどうとか。

K: 每朝南方の航空基地から、実働機数といって、実際に戦闘できる飛行機の機数を知らせてくるわけなんです。それがだんだん少なくなっちゃって、あ、もうこれは駄目だなと思いました。一式陸攻5機とか、零戦10機とか、そういうふうに、だんだん少なくなってきたんです。

Y: そのころ空母は壊滅しますから、陸上の航空基地しか飛行機はいないですね。

K: でも、空母神鷹(しんよう)っていう空母があって、1隻。電報はいつだったですかね。「ワレ ライゲキヲ ウク」って受信したんです。

- Y: 雷撃された。ライゲキとは魚雷を受けるっていうことですね。
- K: でもそれ沈まなかつたですね。その神鷹が南方のほうから物資やなんかを輸送して。飛行機がないものだから、兵隊輸送したり、南方から物資を積んで来てたらしいんです。
- Y: 戦闘中に、例えば戦艦大和が出撃して、攻撃受けますね。傾斜角5度とか10度とか入電したと言われていますが、それは暗号文で来てるんですか？
- K: 話に聞くと平文で来たっていう話もあるんです。
- Y: あと、戦闘機がこれから特攻やるっていうときに、突撃するというふうな電文をよこしますね。あれは・・・。
- K: あれはトトタタタタで突撃のト連送でやって、それが途切れたとき突撃したって分かるわけです。
- Y: モールス符号で突撃のトは、トト・ツー・トトで、それを立て続けに鳴らすとト連送で、突撃しろとか、するぞとかいうふうになるわけですね。一番最後にツーっていう音を出しつ放しにしてると、特攻突撃っていうことですね。
- K: そうですね、それが途切れたとき突撃。
- Y: そういう通信を、電信兵が受けてて、それを暗号兵が解くわけですね。
- K: 電信兵は（電文は）分からぬわけです。
- Y: ただ、ト連送とかは分かるんですか？
- K: それは分かります。
- Y: ツ——というのも分かるわけですね。電報は毎日何本ぐらい入ってくるんですか？
- K: もう何千通です。だから大変なんです。それを25人で解く。交代でりますけど。
- Y: そうすると、24時間で3直だから、100人弱で1000解いたら、1直で10通は解きますね。一つ解くのにどのくらい時間かかります？
- K: 早いときは2、3分で解いちやいます。ただ、電信兵が間違って受けちゃうと、大変なんです。
- Y: じゃあ、休みなしにずっと解いてる。もっと暇だと思ってました。
- K: だから寝る時間が少なくて、眠くて。それで、やりながら眠くなつて、ミミズがのたくったみたいに書いちやうんです。怒られちゃうんです、「寝たな」って。だから外出のときは、入湯上陸といって、夕方から翌朝まで外出ができるんです。実家が池袋なもんですから、もう昼間上陸しないで、夜だけ、家へ一目散に帰つて風呂に入つてゆっくり寝て。それが一番楽しみだったです。（海軍では艦外外出を「上陸」と言い、日吉は陸上だが同じように外出を「上陸」と言つていたようです。——山田注）
- Y: 休みは、何日おきですか？
- K: （海軍省の）東京通信隊にいたときは、当直明けは3日に1回外出したんですけど、こっちでは月に何回ですかね。3回に1回ぐらい外出したですかね。東京通信隊は一番楽だったです。当直明け2回に1回外出できる。しなくてもいいんですけど。
- Y: そうすると、1回には何時間休み？ 24時間ですか？
- K: そんなに休めないです。何時間ぐらい休めたかな。寝てもいいんですけど、あまり寝られないんです。洗濯したりなんかしなきゃならないものですから。
- Y: 休憩時間はあるんですか？
- K: 当直に立つときは休憩時間というのはないんです。
- Y: 当直が終わつて、当直明けになって、そうすると16時間空くわけですか？
- K: そうです。その間に飯食つたり、体育の体操時間とかなんか。
- Y: 何やってるんですか、体操って？
- K: 駆け足とか。綱島まで駆け足。毎日じゃないです。2時間ぐらいかかるんです。班全員でやる。班長が先頭で。
- 《軍服・住居・食事》
- Y: そういう時ってセーラー服じゃないんでしょ？

K: ええ、セーラー服じゃないです。第二種軍装といって、カーキ色の軍服なんです。

Y: 第三種? 第二種? 陸戦隊の服装ですね。

K: そうですね、ああいうやつですよね。外出のときは第一軍装で、セーラー服だった。

Y: 第一種は紺色で、第二種は白。第三種はカーキ色のはずですが。

K: 第二種もカーキ色です。白じゃ目立つんで、カーキ色の服になっちゃったんです。

Y: なっちゃったんですね。じゃあ、そういう軍装の知識もちょっと整理しないといけないですね。

K: 事業服というのもあるんです。最初は白だったんですけど、染めちゃってカーキ色にしちゃって。作業服です。

Y: 靴は何ですか。

K: 外出靴があるんで、ふつうは艦内靴です。運動靴。ズック靴で、ゴム底。暗号室にいたときは事業服です。

Y: 居住場所はどうでしたか?

K: 第一校舎の1階の教室に畳を敷いて、そこで寝泊まりしていました。暗号班全部、同じ場所で交代で寝る。暗号班は一部屋しかないです。電信班も教室ひとつ・・・。そこに布団というか、カボクと言って下へ敷く麦わらの布団みたいなもの。あと毛布です。

Y: 冬は寒いでしょ。

K: 寒かったです。暖房なんかないです。

Y: なし? そうすると、食事は?

K: 食事は烹炊所(ほうすいじょ)というのがあって、体育会の部屋の木造2階建てのがあったんです。その1階が烹炊所でした。それが4月の初め焼夷弾で焼けちゃったんです。

Y: 日吉で唯一軍人が死んだ所ですね。

K: そうです。足立さんという人の家も、僕たちが出入りしてる防空壕のそばの20メートルぐらいしか離れてなかった家が、その日に焼けてた。最初空襲だとは私たち気が付かなくて、仲間が「外が火事だよ」。「え?」といって、やたら出られないから、ちょっとトイレに行ってくるって外に出てって見たら、もうボンボン燃えて。空襲だとは思わなかつたんです。トイレは外にあって、そのそばに足立さんがいてそれがボンボン燃えてた。普通の火事だと思ったんです。空襲だと分かんなかつた。空襲警報って鳴らなかつた。気が付かなかつたですね。なかつたと思うんです。防空壕の中にいたから分かんなかつたのかもしれないですね。足立さんの家が燃えてそのあと行ったら、烹炊所も焼夷弾が落ちて。朝になって、烹炊所の前をいつも通つた人が、「あれ、烹炊所が燃えちゃつたよ」って。

Y: 食事の話に戻しますが、烹炊所で作ったものを第一校舎に持つてきて、机か何かあったんですか?

K: 机はないんです。畳の上にそのまんまお椀を置く。食事は麦飯だったですかね。

安藤 烹炊所の場所っていうのはどこですか。

K: 第一校舎から、ずっと寄宿舎のほうに向かっていく途中にあつたんです。2棟があつたんです。焼けなかつた方は衛兵所になつていたんです。テニスコートの辺り。

Y: そこにいた兵隊が、建物が燃えちゃつて、2階から飛び降りて亡くなつたとか、そういう話が私たちの聞き取りにあります。1人亡くなつてます。

K: 1人避難しなかつたから、部屋に残つたから、そのとき焼夷弾が落ちて亡くなつた方がいました。他の人はみんな避難したらしいんですけど。1人だけ寝てたらしいんです。

Y: ちょっと話を戻して、食事は麦飯ですか?

K: 麦飯です。麦飯というのは白米と麦をませたごはんですね。おかげは忘れちやいました。魚は出ました。それと味噌汁ですよね。野菜も出たと思います。忘れちやつた。でも、そう満腹にはならないですよね、あのころはいくら食べても満腹にはなりません。記念日なんかはビールの配給とか、羊羹(ようかん)とか。

(以下次号掲載予定)

連載**日吉第一校舎ノート (3)****「理想的新学園」の建設**

阿久沢 武史（運営委員）

塾長林毅陸が日吉への移転を『三田評論』に発表したのは、昭和4年（1929）8月号（第384号）である（「日吉台の新用地と吾人の計画」）。そこで林は、決定に至るまでの経緯を説明しつつ、「日吉に広大なる新用地を得ることとなり、予が五年來の宿望漸く実現に向はんとするは、實に満足の至りである」と述べている。その土地は「全然独立の小山を成し、樹木多く、眺望絶佳」であり、このような場所に「義塾新發展の基礎を置く」に至ったことに感謝の意を表し、今後の建設工事に向けて義塾関係者に巨額の資金援助を求める一文を付している。

昭和5年（1930）2月に義塾が東京横浜電鉄株式会社との間に本契約を結んだ際に、2年以内に工事に着手することが約束されていた。同年6月には日吉台の考古学調査が始まり、数基の古墳を発掘、昭和7年（1932）には第一校舎建設の地ならし工事の際に発見された弥生式竪穴住居址の発掘調査が行われた（詳細は『慶應義塾百年史』中巻（後）参照）。この時期、日吉の丘ではすでに本格的な造成工事が着々と進められていたことになる。こうした中で、義塾は昭和7年5月に創立75年記念祝典を挙行、記念式と祝賀会の来賓に『慶應義塾七十五年史』と記念はがきに添えて、『日吉台敷地一覧』のパンフレットが配布された。また三田史学会主催で「過去及び将来の日吉台」と題する展覧会が開かれ、日吉発掘の遺物が展示されている。



日吉台慶應義塾大学 全配置計画図
(福澤研究センター所蔵)

林が塾長として正式に日吉建設資金の募集をするのは、翌昭和8年（1933）10月の『三田評論』（第434号）「日吉建設資金募集に就て」である。林は福澤以来の義塾の教育の理想に言及しつつ、日吉のみならず三田を含めた義塾全体の将来像を示し、日吉移転の意義と目的を次のように述べている。

日吉台は学校敷地として最も好適のものであり、其の実地を検分した人は、皆満足の意を表して居る。其の広大なる敷地内に、先づ大学予科の

校舎を建築し、運動設備を整へ、又新工夫を加へたる寄宿舎を設け、其他順次計画を進むる中には、必ずや理想的新学園の出現となり、教育上に新生面を開き来るべきを疑はない。而して他方三田本塾に於ても、大学々部を中心として諸設備の改善を図るを要するは、言ふ迄もない。日吉台建設は、究極するところ、義塾教育の最高中枢たる大学々部の充実向上を以て、最後の目的と為すこと勿論である。

これとあわせて「日吉建設資金募集趣旨書」が初めて掲載され、募集総額は「金參百万円」、うち予科教室建築費（第一校舎）として「七拾万円」が示された。

日吉に「理想的新学園」を建設する——。林のこのビジョンは、「趣旨書」では次のように表現され、昭和9年（1934）11月号まで1年間にわたって『三田評論』に毎号掲載されることになる。

日吉台は土地高燥眺望開闊、青少年子弟の教育に最も好適の地にして、其至良の環境の中に完備せる校舎並に寄宿舎を建築し運動設備を整へ大学予科其他を之に移して理想的学園を建設する

さかのぼって、林が予科移転の構想を『三田評論』で初めて公にしたのは、大正15年（1926）8月号（第348号）であった（「三田丘上の復旧及整理」）。ここを起点に昭和8年（1933）の建設資金の募集まで、8年の歳月を経ている。すでに見たように、林はそこで、郊外の適当の地に予科を移せば「青春発育の最盛期に在る」学生にとって「体育上、訓育上、一般教育上、非常に有益であるに相違ない」と述べていた（前号、連載第2回参照）。体育・德育（訓育）・知育（一般教育）の育成のうえで、青春発育の只中にある青少年に益する最適の地、しかも

そこは眺望はるかに開けた高台にあり、都心の喧騒を離れた郊外の広大な敷地の中に、最新の設備をもった校舎・運動施設・寄宿舎を建設する。それはまさに義塾の未来を拓く「理想的新学園」の建設にふさわしい一大事業であり、林の当初の理念をそのままに形にした新キャンパスの建設が、一面に田園風景の広がる日吉の地で、いままでに進められようとしていたのである。

連載**地下壕設備アレコレ【その10】アンテナ**

運営委員 山田譲

日吉の連合艦隊司令部地下壕には電信室があります。「受信機は30台位あつたろうか」と元電信兵の下村恒夫氏は書いています(「慶應生協ニュース」1994年7月15日号)。この受信機は「92式特」(同上、下村氏)とよばれたもので短波放送受信ラジオと同じです。当然アンテナが必要です。以前、アマチュア無線愛好家が海外の人と短波で交信するために自宅の屋根に高いアンテナを立てているのを見かけました。遠距離通信のためには送信、受信ともしっかりしたアンテナが必要です。

しかし、日吉の受信アンテナについては何の記録も文書もありません。他方、蟹ヶ谷の海軍東京通信隊には、立派な鉄塔のアンテナがありました。高さは30m程でしょうか。それで

蟹ヶ谷からアンテナ線をひっぱってきたのではないかという推測がありました。しかしこれは電気工学的に言ってありません。アンテナで受信する信号電流は高周波ですから、長い距離の電線を通ると、電気抵抗が発生して、著しく減衰してしまいます。全く役に立ちません。それどころか、地下の電信室に地上のアンテナ線をひっぱってくるだけでも「空中線の引込み線が長くなり……その能率は一般にきわめて悪くなつた。」と軍令部元通信課長鮫島素直氏は書いています(『元軍令部通信課長の回想』)。また、鮫島氏によれば「航空基地では、空中線(アンテナ線のこと)展張用として受信所には高さ30m……の自立式鉄塔各3基を設置した。」

とあります。実際、霞が関の海軍省の東京通信隊にもアンテナ塔が立てられていました。しかし「空襲激化に対応」して「鉄塔は飛行機からの目標となるため全て撤去され……樹木を利用したり、極力目立たぬように工夫した小木柱を用いた。」(同上)と書かれています。

では、日吉では実際はどうだったでしょうか。元暗号兵の栗原啓二氏の話では寄宿舎の手前に電信柱を2本つないだ柱がアンテナ用に立てられていたことです。これは先の鮫島氏の書いていることと一致します。では、その空中線をどのように地下に引き入れていたのかは、はっきりしません。地下の電信室と暗号室の中間の所の天井に、直径10cm位の鉄パイプがつき出しています。これが引込み線用だった可能性もあります。元電信兵の方のお話を聞く機会があったら、このアンテナのこともぜひ聞きたいものです。

お知らせ**平和のための戦争展 in よこはま**

5月30日(金)13時～6月1日(日)18時 横浜西口かながわ県民センター

講演会 5月31日 13:30～16:00

「地球市民としてともに生きる」 小山内美江子

6月1日 13:30～15:30

「こどもとおとな同時代を生きる」 落合恵子

その他展示・映像・朗読劇などがあります。入場無料 講演会は資料代500円

問合せ 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会 Tel 045-241-0005

★活動の記録 2014年2月～4月

- 2/12 会報114号発送（慶應高校物理教室）
 2/18 運営委員会（慶應高校物理教室）
 2/22 定例見学会 47名
 2/27 地下壕見学会 田園調布学園高校 33名
 3/8 第3回日吉の戦争遺跡ガイド養成講座（来往舎中会議室）
 3/10 地下壕見学会 東京南部生協 45名
 3/15 戦争遺跡保存全国ネットワーク神奈川県川崎大会実行委員会（明治大学生田キャンパス中央校舎）
 3/16 ガイド学習会（菊名フラット）
 3/18 運営委員会（慶應高校物理教室）
 3/22 定例見学会 17名
 3/29 第9回日吉台地下壕保存の会公開講座『世界の平和思想と日本の現状』
 　～特定秘密保護法、憲法9条などをめぐって～ 講師：藤森研氏
 　（来往舎大会議室） 55名
 4/3 戦争遺跡保存全国ネットワーク神奈川県川崎大会実行委員会（法政第二高校）
 4/4 琉球朝日放送の取材（日吉キャンパス）
 4/7 地下壕見学会 みろく山の会 26名
 4/9 地下壕見学会 旧満州を語る会 15名
 4/12 第4回日吉の戦争遺跡ガイド養成講座 フィールドワーク日吉キャンパス周辺・日吉の丘公園周辺
 4/17 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会（かながわ県民ポートセンター）
 4/19 港北区地域のチカラ応援事業プレゼンテーション（港北区役所）
 4/22 運営委員会（慶應高校物理教室）
 4/26 定例見学会 中止

予定

- 5/2 会報115号発送（慶應高校物理教室）

☆ 連合艦隊司令部地下壕は、安全点検のために5月末まで入坑できません。2月27日から地上のみの見学会を行っています。詳細は以下の見学会窓口までにお問合せ下さい。



日吉の丘公園の桜 2014.04.12

☆地下壕見学会は予約申込が必要です。

お問い合わせは見学会窓口まで TEL 045-562-0443 (喜田 午前・夜間)

連絡先(会計)亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758

(見学会・その他)喜田美登里: 横浜市港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443

ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会

郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章

(加入者名) 日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会運営委員会